



かしわの

No 4 9 6 (2月号)

令和4年2月

調布市立柏野小学校

校長 浅野 正臣

<http://www.chofu-schools.jp/kasiwano-sho> mail:kasiwano-sho@chofu-schools.jp

学校評価教育アンケートのまとめ

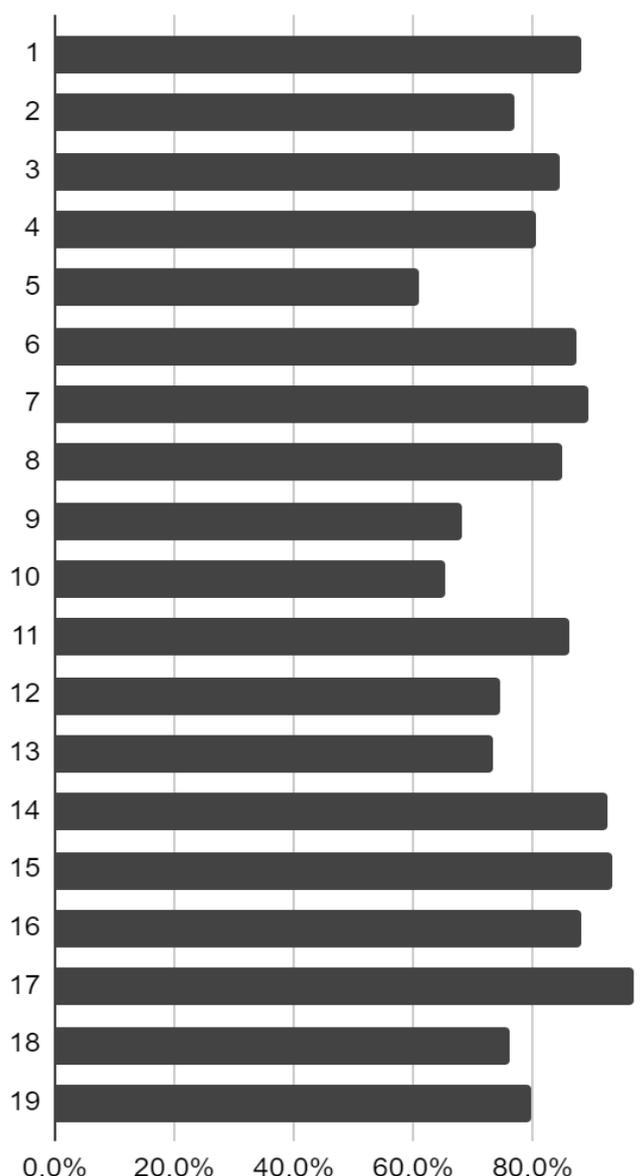
今年度の学校評価(令和3年12月実施)につきまして、ご回答をいただきありがとうございました。今年度は、Googleformによるアンケートを活用しました。回答率は73%でした。

今年度は、保護者の他に児童からもアンケートを実施いたしました。皆様からいただいた貴重なご意見を基に、今年度の振り返りを行い、来年度の教育活動に活かしてまいります。今後とも、本校の教育活動にご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

保護者

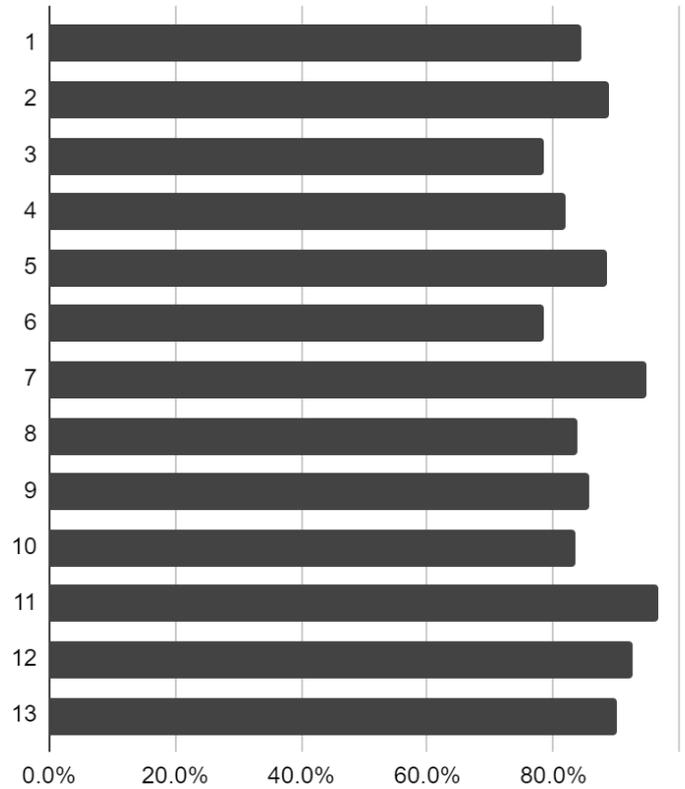
(「そう思う」+「ややそう思う」で80%以上を肯定評価として以下に示しています。)

- 1.お子様は、学校へ行くことを楽しみにしている。
- 2.お子様は、授業が楽しく分かりやすいと言っている。
- 3.お子様は、複数の教員による指導(1・2年)や習熟度別学習(3~6年)により、算数の授業内容を理解している。
- 4.お子様は、家庭学習の習慣が身に付いている。
- 5.お子様は、読書に親しんでいる。
- 6.お子様は、自分のよさと友達の良さを認め合い、協力して活動している。
- 7.お子様は、約束やきまりを守って生活を送っている。
- 8.お子様は、挨拶や返事をする習慣が身に付いている。
- 9.お子様は、すすんで運動をしている。
- 10.お子様は、ご家庭でお手伝いをすすんでやっている。
- 11.学校は、ICT機器やタブレット端末を活用した授業を推進しようとしている。
- 12.学校は、「いのちとこころの教育」活動等を通して、いじめや仲間外れ等がないように心の教育の充実に努めている。
- 13.学校は、子供の悩みや相談事を受け止め、対応している。
- 14.学校は、セーフティー教室や毎月の避難訓練等を通して、安全に対する意識の向上に努めている。
- 15.学校は、お便りやホームページ、保護者会等で、学校の取組や子供の様子を伝えている。
- 16.学校は、たてわり班活動等を通して、異学年との交流を深め、協力し合う気持ちを育てている。
- 17.学校は、感染症の拡大状況に応じ、必要な対策や学校行事を行っている。
- 18.学校は、地域学校協働本部と連携し、地域の特色を活かした教材やゲストティーチャー、体験的な学習等を充実させている。
- 19.「柏野小スタンダード」は、学校と家庭の共通理解に役立っている。



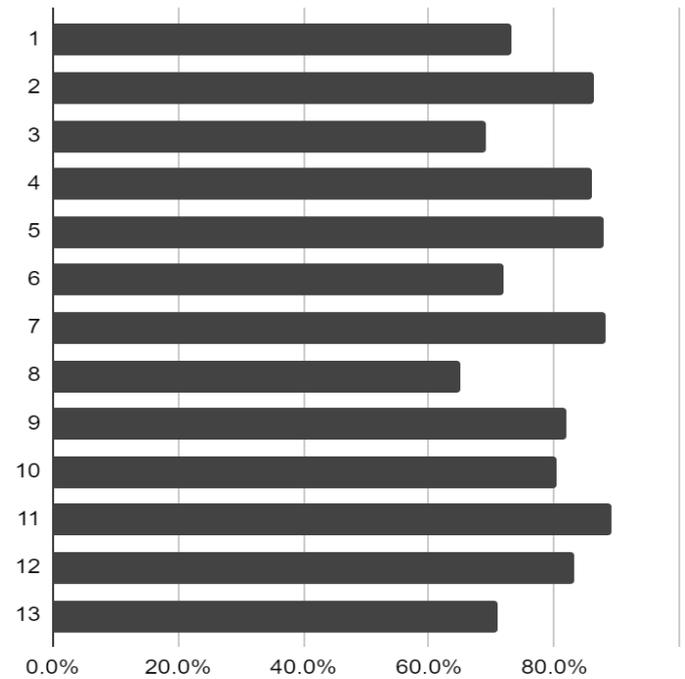
1.2年

- 1.あなたは、がっこうへいくことをたのしみにしている。
- 2.あなたは、じゅぎょうちゅうに「わかった」「できた」というきもちになる。
- 3.あなたは、じぶんのかんがえをはっきりとはなしている。
- 4.さんすうのじぎょうは、すくないにんずうでべんきょうすることで、わかりやすい。
- 5.あなたは、いえでまいにちべんきょうをしている。
- 6.あなたは、ほんをよむことがすきである。
- 7.あなたは、ともだちにやさしくしたり、なかよくしたりしている。
- 8.あなたは、こまったことがあったらせんせいにおはなしをする。
- 9.あなたは、がっこうのきまり(かしのしょうすたんど)をまもってせいかつをしている。
- 10.あなたは、じぶんからせんせいやともだちにあいさつをしている。
- 11.あなたは、うんどうやそとあそびをしている。
- 12.あなたは、とうばんやかかりのしごとをやっている。
- 13.じぶんにはよいところがある。



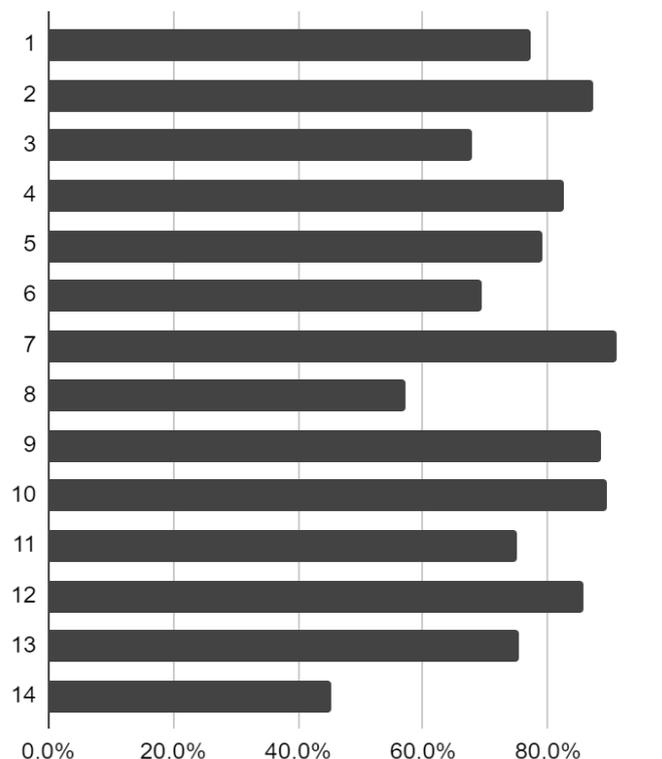
3.4年

- 1.あなたは、学校へ行くことを楽しみにしている。
- 2.あなたは、じゅぎょう中に「わかった」「できた」という気持ちを味わっている。
- 3.あなたは、じゅぎょう中、自分の考えを発表している。
- 4.あなたは、習じゅく度別学習により、算数のじゅぎょうを理解している。
- 5.あなたは、家で毎日勉強している。
- 6.あなたは、読書をするのが好きである。
- 7.あなたは、友だちや下級生にやさしくしたり、仲良くしたりしている。
- 8.あなたは、こまったことがあったら先生に相談する。
- 9.あなたは、学校のきまり(柏野小すたんど)を守って生活をしている。
- 10.あなたは、自分から先生や友達にあいさつをしている。
- 11.あなたは、校庭に出で、すすんで運動したりや外遊びをしたりしている。
- 12.あなたは、係や当番の活動をすすんでやっている。
- 13.自分には、よいところがある。



5.6年

- 1.あなたは、学校へ行くことを楽しみにしている。
- 2.あなたは、授業や学習活動中に「わかった」「できた」という達成感を味わえている。
- 3.あなたは、授業や学習活動中に、自分の考えをすすんで伝えている。
- 4.あなたは、習熟度別学習により、算数の授業内容を理解している。
- 5.あなたは、家で毎日勉強している。
- 6.あなたは、読書をするのが好きである。
- 7.あなたは、友だちや下級生に優しくしたり、仲良くしたりしている。
- 8.あなたは、困ったことがあったら先生に相談する。
- 9.あなたは、学校のきまり(柏野小スタンダード)を守って生活をしている。
- 10.あなたは、自分から先生や友達にあいさつをしている。
- 11.あなたは、校庭に出てすすんで運動したり外遊びをしたりしている。
- 12.あなたは、当番や委員会活動等に自分からすすんで取り組んでいる。
- 13.あなたは、学校をさらによくするために自分から行動している。
- 14.自分には、よいところがある。



【考察】

◎保護者・児童の回答から、より良い学校を目指すために、原因と改善策を教職員全員で考えました。80%以上の項目は、継続できるようにしていくこと、80%未満の項目は、教職員みんなで力を合わせ、伸ばしていきたいと思います。また、設問によっては、パーセンテージが左右されたことも考えられますので、設問文を見直しして来年度実施していきます。

1.「お子様は、学校へ行くことを楽しみにしている。」という項目に対して、保護者は肯定的だが、3年生以上の児童は80パーセントに達していませんでした。

〈原因〉

・学年が上がるにつれ、友達関係の複雑化や学習への困り感が出てくる。また、コロナ禍で制限されることが多くなり、学校における楽しみが減ったのではないかと。

〈改善策〉

- ・学校全体として子ども達が達成感や成長しているという実感をもつために何が大切で必要かということを明確にし、ビジョンをもち、共通理解の上で教育活動を行っていく。
- ・クラス遊びやグループ活動などを意図的に設定し、子供同士の関わり合いを増やしていく。
- ・スモールステップで達成感を感じられるような活動を取り入れる。
- ・子どもの実態に合わせて、補習をするなど、学習や生活の満足度を高める。
- ・子ども自身が企画し、やってみる体験を行っていく。
- ・教員が、休み時間の過ごし方を観察したり、ソシオグラムを作ったりして友達とのかかわりを増やす活動を意図的に入れる。
- ・学校生活の大半が授業中であるから、教員が楽しい授業づくりを目指す。

2.「お子様は、授業が楽しく分かりやすいと言っている。」では、児童は 80%達成していますが、保護者は若干 80%に達していませんでした。

〈原因〉

・授業参観が少ないため授業の様子が保護者に伝わらないのではないか。また、子供の学習状況を把握するのが家庭学習のみになることで、宿題に応用できておらず、家庭学習でも生かされていないのではないか。

〈改善策〉

- ・教材研究の一層の充実、教員同士の情報共有をすることで、授業力向上を目指し、楽しい授業づくりに努める。
- ・ホームページや学級通信等で授業の様子を積極的に知らせる。
- ・授業の質が上がるように、個人や学年で教材研究をする時間をしっかりと確保する。
- ・学習の様子が伝わるように、学習ノートを活用する。
- ・宿題ファイル等を通して、保護者との連携を増やし、課題の共有やテストの直しを行っていくことで基礎学力をあげていく。
- ・保護者の希望を担任に伝えて、学期1回程度の授業参観を行っていく。〈保護者と担任の相談で設定する等〉

3.「自分の考えを・・・」の項目は、全学年 60~80%未満になっていました。

〈原因〉

- ・積極的に発言する児童が固定化しがちで、あまり発信しない児童もいる。自分の思いを表現することに慣れていない。
- ・自分の考えに（自分自身に）自信がないように感じられる。聞き手側も、相手の考えを聞こうとする姿勢が感じられないことで、考えを発表する雰囲気が出ていない。
- ・感染対策で、話し合い活動が制限されている。

〈改善策〉

- ・聞くこと、話すことの指導の工夫が必要だと考えられる。(朝のスピーチ、問題解決型学習の設定)自分の意見を発現する機会を多く設ける。また、話しやすいクラスづくりのための手立ての工夫も考える必要がある。
- ・学級や学年運営を見直し、自分の考えを話しやすい雰囲気を作るようにする。
- ・低学年のうちから、「〇〇と〇〇では、どっちがすき」「わたしはこう思う」など、単純な質問から、どんどん意思表示させる機会をもたせ、慣れさせていく。
- ・子供が意見を言いたくなる題材を考える。
- ・考えをシェアできる環境や時間を確保する。人の話を聞くと楽しいという感覚が芽生える活動を取り入れる。
- ・自分の意見をノートに書いたり、指名なしの発表を取り入れたりする。
- ・発表の機会を増やし、場数を増やすことで経験値から自信をつける。ペアやグループでの話し合いを取り入れ、自分の考えに自信をもってから発信する。そのためには、「自分の考えを否定されない。」「自分の考えをみんなが聞いてくれる。」などの安心できる環境づくりが必要である。
- ・口頭での発表だけでなく、ホワイトボードに書いて発表したり、タブレットを活用したりする。

4.「読書に親しむ・・・」の項目は、保護者・児童・教員すべてにおいて60～80%未満になっていました。

〈原因〉

・家庭で読書をする習慣や環境が少ない場合も多く、ゲームやYouTubeなど、読書以外の楽しみに時間をかけていると考えられる。タブレットやスマホなどを扱い、たくさんの情報にあふれており、刺激を求めて読書よりも魅力的だと感じてしまうのではないか。また、一定数、読書が苦手な児童がいる。家庭でも小さいころから本に親しむ経験が減っているのではないか。コロナ禍で、大人の読み聞かせを行う機会が減ってしまった。

〈改善策〉

- ・読み聞かせ、読書時間(朝読書)の確保をする。さらに、国語に限らず、他教科での本の活用なども計画的に行っていく。
- ・個人差が大きいため、読書に親しみにくい子への対応を考える。
- ・家庭への啓発を行う(読書カードの活用)。
- ・図書の時間や学級での時間で、ただ読ませるだけではなく、積極的に、読書指導を行う。学校図書館としての取り組みを工夫する。
- ・ブックトークややビブリオバトルなどを取り入れ、意図的に本を読む機会をつくっていく。
- ・地域・保護者に読み聞かせをしてもらう。
- ・学級文庫を学期ごとに学年の他クラスと入れ替える。

5.「困ったことがあったら、先生に相談する」項目では、保護者・児童(3年生以上)が55～80%未満になっていました。

〈原因〉

- ・児童・保護者がもっと担任に話を聞いてほしいと思っていたり、保護者は、学校の様子について不安に思っていたりするのではないか。
- ・教員の多忙感から、十分に児童に向き合えない面もある。1対1で話す時間がない。
- ・教員としては相談をしてきた児童は対応しているが、それができない子もいるのではないか。
- ・保護者が、教員が児童の相談にのっていることを知らない場合もあるのではないか。

〈改善策〉

- ・休み時間に子供たちとの交流時間を心掛け、信頼関係を築く。
- ・一人一人の様子を気にかけるようにし、声をかけるようにする。また、変化に気付いたら、学年での情報共有をし、担任以外でも気にかける体制を組んでいく。
- ・学校生活アンケートを簡単なものでよいので、月に1回行うなど、わかる形で相談できる雰囲気を示す。
- ・受けた相談を保護者に教員側から伝えていく。(自分から発信できない子もいるため)
- ・日記などを活用する。
- ・学級通信で学校の取り組みを紹介する。
- ・担任がクラスを入れ替えて他クラスの教員にも児童が相談しやすい雰囲気をつくる。

6「自分にはよいところがある。」の項目では、1.2年生で90%近いのに、3年生以上になると80%を切り、5.6年生では、45%くらいまで下がっていました。

<原因>

- ・学年が上がるにつれて、自我が芽生え、周りと比較できるようになり、みんなと同じことができない自分に気付いてしまう。
- ・友達関係の変化や学習内容も難しくなるため、より自分に自信がなくなり、よいところに気付きにくくなる。
- ・自分を客観視できずに「自分だけ」注意された、できないなど、自分だけ否定的な感情になることがある。
- ・低学年では、学習でほとんどが「よくできる」をもらうことから始まり、教科が増えるたびに点数が取れない時が出てきて、大人の視線が「できること」から「できないこと」に移るのではないか。

<改善策>

- ・ほめあい、いいところ探しなど、友達からよいところを教えてもらう活動を重ねていく。自己肯定感が上がる活動の設定を意図的にする。さらに、教員が、ほめることを心掛け、前向きに活動に取り組めるように支援していく。
- ・学習や生活において、自信のもてる機会を各学級で増やす。学級で個々が活躍できる場を作る。
- ・自分で計画し、やってみた結果、うまくできた経験を積ませ、自信をもたせる。
- ・点数のことではなく、得意なことに気付かせる声掛けをする。(1人1人に〇〇名人とつくることで、「これだけは負けない」という意識が芽生えさせる。)

7.地域学校協働本部についての項目が、80%に達していませんでした。

<原因>

- ・地域学校協働本部が発足してから2年目に入った。今年度は、学校のホームページに活動の様子を載せたが、まだまだ、活動の様子が伝わり切れていない面がある。

<改善策>

- ・地域学校協働本部では、学校と地域コーディネーターの方と相談して、学校の支援を行っている。具体的には、「学習支援員」、(子どもの学習の補助)、「ボランティア」(図書や食育指導、草取りや花の手入れ、トイレに花を飾る等)、「水泳指導員」(水泳指導の補助)、授業のゲストティチャーの招へい等として支援を行ってもらっている。子ども達は、地域の人(柏野小学校卒業生が大半!)と共に学習することを楽しみにしているので、地域の人材を活用しながら今後も活動を行っていく。そして、ホームページを通して活動の様子を伝えていく。

<自由意見>

○保護者会について

- ・保護者会をZoomにしてほしい。学校の掲示物等を見る目的も兼ねて保護者会に出席しているが、掲示物のみであれば自分の都合で学校に見に行けばいい。
- ・保護者が学校に行く行事が月末月初ばかりで仕事を休めない。保護者会はオンライン参加もできるようにしてもらえれば、参加できる場合もあるので検討頂きたい。
- ・保護者会のzoom開催を常に希望。

○ホームページ

- ・ホームページでの授業や行事の紹介の更新が多くてわかりやすいです。

○個人面談

- ・日々の出来事など本人は全く話さないのが毎学期、個人面談があると嬉しいです。

○タブレット・オンライン授業について

- ・iPad やパソコン操作に苦手意識があるようなので、もっと使いこなせるように時間を増やしてもらいたい。
- ・タブレットを学校管理していただきたい。話し合っているが、依存傾向、本人では時間管理難しく、教育系番組であっても長時間見、視力低下など懸念される。遠隔授業必要時、少人数分散登校し同時授業願いたい。
- ・コロナ禍が長期化する中、オンライン授業等新しい取り組みがありました。子どもは「オンライン授業楽しかった。久しぶりに皆のマスクではない顔も見ることができて嬉しかった」と言っていました。感謝しています。
- ・オンライン授業をすると、授業や学習の進捗がわかるので、今後も続けてほしい。
- ・子供が家庭で貸し出しされているタブレットを長時間使用して困ることがあります。ルールを守るように今後も話をしていこうと思います。
- ・タブレットの家庭での取り扱いについて戸惑っている。家庭において学習面でどのように活用すればよいのか、1人1台配布しただけではなくアドバイスがあると有難い。
- ・タブレットの使用頻度が少ない。使わないのに毎日ランドセルに入れていく意味がわからない。ただ、充電してるだけ。
- ・オンライン授業でタブレット端末を活用されていましたが、普段の授業での活用がよくわかりません。こちらの見落としでしたら申し訳ありませんが、目指すところなど発信していただくとよいと思います。
- ・現在、不登校で学校へは行っていません。学校に行くこと、クラスに入ること、大勢の子供達の中にいることが困難です。タブレットを通じて、少しでも学校との繋がりが持てるようにしていただけると有難いです。

○柏野小スタンダードについて

- ・最後のご質問の柏野小スタンダードなるものが、よく把握できませんでした。普段からのことなのか、具体的な方針が提示されていることなのか…概ね、学校には満足しています。
- ・柏野小スタンダードの内容が、あまり浸透されていない気がする。知らなかったことも多い。

○学校行事について

- ・コロナ禍においても、ポジティブ思考で学校行事を続ける前提で、創意工夫を継続してください。
 - ・授業参観を増やしてほしいです。
 - ・学校公開時に保護者会をするなど、呼ぶ回数を減らす工夫をしてほしい。例えば、展覧会も学年の時間を割り当てたその日に保護者会をすればよい。分散させる割に何度も呼びつけるのは矛盾している。
 - ・コロナ禍の中、学習発表会を開催いただきありがとうございました。子ども達の成長が見られ嬉しく思いました。娘も学校に行ける事が日々楽しくて仕方がない様子でおり、親としてありがたいです。
 - ・2学期に研究授業による授業時間の短縮日が多いように感じましたが、授業数は足りているのでしょうか？足りている場合でも、不足で3学期に時間数が増えたりする場合でも、学期初めなどに説明の連絡が欲しいです。
 - ・ゲストティーチャーの方からの影響はとて大きく、毎回その日は話題に上ります。
- 今後もこのような社会での役割のある方との触れ合いは是非続けて頂きたいです。
- ・コロナ禍の中、修学旅行に行けたことを感謝します。楽しい思い出ができ、遠いところに初めて行って帰ってきたことで自信に繋がったと思います。有難うございました。
 - ・新型コロナの影響か、学校行事も少なくなりどのような教育を受けているのか把握できる情報がありません。学校側からは何かしら発信はされていると思いますが、期待通りに私たちの元に届いていない事実があります。
 - ・ハケ岳を境にぐっと成長したように感じます。機会を作って頂き感謝します。子どもからの聞き取りも含めた回答です。先生は子どもの気持ちをわかってくれてありがたいとのことでした。

○学習体制について

- ・算数の習熟度別学習を実施していることを子供の口からしか聞いたことがなかった。
- ・担当する算数の先生によって教え方に違いがあり、わからないということが多い。

○感謝の言葉

- ・いつもご指導ありがとうございます。感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。
- ・お友達と楽しく下校しており嬉しいです。
- ・今日の自分について良かった点注意を受けた点など正直に話してくれます。それについて自宅でもフィードバックを心がけております。これからもご指導お願い致します。
- ・いつも有難うございます。前代未聞のコロナ禍の中、登校できる環境に感謝申し上げます。
- ・ITが発達した社会でも、やはり人と人とのふれあいが大切であると実感しております。今後とも宜しくお願い致します。
- ・コロナ禍の中、できる範囲内での行事や教育活動をしてくださり、ありがとうございます。
- ・感染症対策をしながら子供たちのことを考えて出来ることを積極的に行って下さり感謝しています。移動教室も実行出来て良かったです。親子の対話が難しい年頃ですが学校生活が充実しているのは感じています。
- ・かにやまの先生と担任の先生もよく連携して下さり、子どもの理解を深め、対応を模索して下さることにとっても感謝しています。
- ・コロナ禍で、まだまだ以前の様な活動ができない中、先生方・PTA 含め、子どもたちのために色々と工夫して下さっていることを実感します。
- ・日光移動教室のメールがとても嬉しく、ワクワクしました。お忙しい中、状況を知らせてくださった校長先生、ありがとうございました。
- ・不登校で学校へ行けずにいますが、学校、先生方が対応して下さいます。ありがとうございます。
- ・子供は柏野小以外には通いたくないと言っています。私たち親も同じ気持ちで、先生方には本当によくやっていただいていると大変感謝しております。今後ともよろしく願いいたします。
- ・なかなか感情のコントロールが出来ず、トラブルになってしまうこともあるようですが、先生方やお友達の協力もあって本人なりに頑張っています。ありがとうございます。
- ・登校できない子どもの為に、リモート授業を続けていただきありがとうございます。好きな教科を楽しみ、クラスメイトの温かいサポートを受けることができています。先生のご配慮とご尽力に感謝いたします。
- ・子供は毎日学校に行くことを楽しみにしています。その姿を見て、親としてとても嬉しく思っております。先生方、ご無理のないようにしてくださいね。
- ・学校は楽しく通っています。色々なプロジェクトを通して日々学びを深めています。
- ・コロナ禍でも色々と工夫して経験できているのでよいと思います。
- ・いつも学校の授業・活動には感謝しています。これから更に子どもが自分で考え、自分で行動できる子どもになれるよう、指導してほしいと願っています。

○配布物について

- ・学校からのお知らせが多いので、電子化を希望。

○防犯について

- ・からかい、いじめ等あったと思われる時の学校のスタンスを知りたいです。あと防犯が弱いと感じています。窓からナイフを持った人が侵入してきたら対応できるのでしょうか？ガードマン、防犯カメラの設置を希望します。

○その他

- ・感染状況にもよると思うが、休み時間の外遊びを増やして欲しい。
- ・たくさん児童がいる中大変ですが、それぞれの子どもの努力を認めてあげていただきたいです。
- ・学校で起こっている良い事も悪い事も耳に入らないので不安を感じる。
- ・体育などの安全面の配慮や事故や怪我の際の対応など共通認識をご検討いただけたらと思います。
- ・給食が早く復帰して欲しいです。
- ・柏野給食を最後食べさせてあげたかったので、給食室が完成したら食べられる様にしてほしいです。
- ・弁当持参になってから、食事時間が短く、改善がされていない。食育についての配慮不足を感じる。